

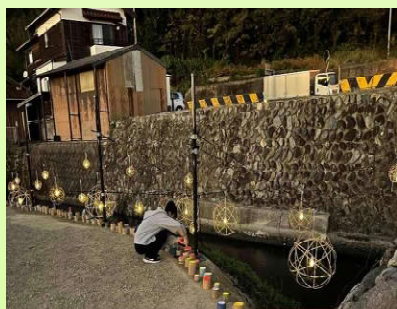
令和7年度

地域魅力化応援隊員業務報告書

<総括表>

地域魅力化応援隊員が

魅力ある地域づくりを応援します



益田市政策企画局地域振興課

もくじ

(1) 令和7年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 2
(2) 益田地区	P. 3～P. 5
(3) 吉田地区	P. 6～P. 9
(4) 高津地区	P. 10～P. 12
(5) 安田地区	P. 13～P. 16
(6) 鎌手地区	P. 17～P. 20
(7) 種地区	- (募集中)
(8) 北仙道地区	- (配置なし)
(9) 豊川地区	P. 21～P. 24
(10) 真砂地区	P. 25～P. 28
(11) 西益田地区	P. 29～P. 32
(12) 二条地区	P. 33～P. 36
(13) 美濃地区	P. 37～P. 38
(14) 小野地区	P. 39～P. 42
(15) 中西地区	- (配置なし)
(16) 東仙道地区	P. 43～P. 46
(17) 都茂地区	- (配置なし)
(18) 二川地区	- (配置なし)
(19) 匹見上地区	P. 47～P. 49
(20) 匹見下地区	P. 50～P. 55
(21) 道川地区	- (配置なし)
(22) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 56～P. 57

【地域魅力化応援隊員とは】

総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区に配置しています。

令和7年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田公民館	益田地区	石川 祐子	令和4年 4月
2	吉田公民館	吉田地区	石田 令子	平成30年4月
3	高津公民館	高津地区	梅津 梨紗	平成29年4月
4	安田公民館	安田地区	尼子 達夫	平成27年5月
5	鎌手公民館	鎌手地区	佐々木 浩臣	令和4年 7月
6	種公民館	種地区	募集中	—
7	豊川公民館	豊川地区	岡崎 友臣	平成26年4月
8	真砂公民館	真砂地区	石田 江里加	令和5年11月
9	豊田・西益田公民館	西益田地区	松蔭 保	令和7年 4月
10	二条公民館	二条地区	長谷 美里	令和7年12月
11	美濃公民館	美濃地区	椋 慎吾	令和7年 6月
12	小野公民館	小野地区	宮内 英之	平成30年4月
13	東仙道公民館	東仙道地区	青戸 美奈子	平成28年4月
14	匹見上公民館	匹見上地区	檜谷 望	令和3年 4月
15	匹見下公民館	匹見下地区	寺西 泰一	令和4年 9月

計14名

益田地区

地域魅力化応援隊員 氏名 石川 祐子

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

益田地区

2. 配置年月

令和4年4月から



3. 活動の概要

①活動の内容

- ・役員会 計7回（見込み含む）
- ・定期総会開催、資料作成
- ・会計処理業務
- ・監査会
- ・だより作成
- ・地域活動推進助成金事業（周知、受付、相談、会長・副会長承認会議等）
- ・プロジェクト事業（文章作成、配布、打合せ、準備等）



定期総会



役員会



プロジェクト事業情報共有会

地域活動推進助成金制度のご案内

対象活動 事例・イメージ

- 日本遺産認定記号スタンプラリー
- 対象活動 事例・イメージ
- 地域活動推進助成金

まずはお気軽にご相談ください。

お申込み 益田地区 益田だより協議会 23-5752 (益田公設館内)

地域活動推進助成金事業

②活動の成果及び効果

- ・5月に開催した定期総会において、新たな「まちづくりプラン」および新役員が承認され、今年度から新体制でのスタートとなった。
- ・役員交代があり、会長のみ前年度からの役員だが、その他の役員は全員新任となったため、地域振興課に依頼し、「地域マネージャー勉強会」を実施。
- ・地域活動推進助成金事業は、地区内で活動する団体や個人を対象に、策定したビジョンに沿った活動に対し1団体・個人あたり上限5万円を助成する事業で、今年度は10件の申請があり、その内9件を承認し実施した。秋まつりや地域食堂、住吉神社周辺及び池そうじなど様々な事業が展開された。少しずつでも地域の活動が根付いてほしい。

【地域活動推進助成金事業の様子】



秋まつり



地域食堂



池そうじ



つろうて来んちやいデー



あそび隊



土手景観試験活動

- ・また、新しいチャレンジ応援補助金として、「まちづくり活動特別補助金」および「協働のまちづくり事業補助金」についても地区内へ周知・募集を行っている。
- ・プロジェクト事業では「子どもを核としたつながりプロジェクト」として関係団体へ呼びかけ、情報共有会を3回開催した。グループトークや年間事業などの発表、トークフォークダンス、マグネットトーク等を通じて、団体同士が顔の見える関係を築く機会となり、今後の連携や相談につながる土台づくりができたのではないかと感じている。

4. 残された課題と今後の提案

今年度から部会制を廃止し、プロジェクト事業として、年度ごとに設定したテーマに沿って活動してきた。今年度は取り組みを通して多くの気づきや課題が見えてきたことから、来年度も同じテーマで継続して取り組むこととなった。

来年度も関係団体のみなさまと目的や方向性を共有しながら、より納得感のある形で連携を深め、活動を発展させていきたい。

地域活動応援補助金事業では、昨年度本事業の実施を決定した際、地区の方々が応募しやすいよう、審査を過度に厳格化せず、間口を広く公募を行った。その結果多くの申請につながったが、一方で、審査基準が十分に整理されていない部分もあり、判断が曖昧になる可能性があると感じている。今後は、もう少し一定の基準を明確にした上で、公平性・透明性の確保に努めたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度から新たな「まちづくりプラン」が始動し、現在は体制整備を進めながら少しずつ着実に事業を展開しているところである。ただ、益田地区には貴重な日本遺産構成文化財が多くあり、色々な可能性を持っているが、部会制廃止により活かしきれていない状況にある。来年度からは公民館との連携・協力を更に深めながら、益田地区の魅力を活かしたまちづくりをしていきたい。

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

吉田地区

2. 配置年月

平成30年4月

3. 活動の概要

① 活動の内容

- 1) 地域自治組織の組織運営に対する支援（会議運営、事業企画・提案、まちづくりプランの改定支援等）
- 2) 地域課題の整理及び情報の共有化（住民同士の話し合いの促進）
- 3) 住民自治機能の充実や機能強化の支援（地域課題解決のための活動支援）
- 4) 公民館・地域団体との連携
- 5) 各種研修会、担当者会議への参加

② 活動の成果及び効果

○会議（総会・役員会・全体会）運営

定期総会（5/17）

R6年度事業報告・決算報告、R7事業案・予算案、役員改選

役員会（4/22・10/30・1/24・3/7）

事業報告・事業計画、規約改正、役員改選について協議

全体会（7/30・1/24）

第1回：研修「10年後の吉田地区」

組織改編案について

第2回：研修「益田市中山間地域振興基本計画について」



定期総会



第2回 役員・運営委員全体会

○安心安全なまちづくり部会の活動を支援

防災班会議（5/17・9/20・2/28）

吉田地区防災協議会（6/7・11/1・3/21）

第1回：防災研修「福祉避難所について」

第2回：吉田地区防災訓練

第3回：「吉田地区防災装備品整備計画」作成に向けて協議

安全班会議（9/20・12/20）

通学路一斉見守り活動「吉田の見守りアイ」説明および意見交換会（4/12）

通学路一斉見守り活動（5/13～5/16・10/14～10/17）、

通学路危険カ所改善の要望提出（1/15）



吉田地区防災訓練



通学路一斉見守り活動
「吉田の見守りアイ（眼・愛）」

○歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会の活動を支援

歴史文化班会議（9/21・12/6・2/14）

歴史茶話会（6/14・9/27・12/6・2/14）

R7年度テーマ：産業 まちににぎわいをもたらしたもの

第1回：「鉱業 都茂丸山鉱山」

第2回：「漁業 日本海と高津川めぐみ」

第3回：「林業 匹見の富、広葉樹林」

第4回：「繊維製造業 木質原料を用いた繊維の製造」

ヨシダリーダーズ活動（小中高生放課後支援活動業務委託事業）

（4/29・5/11・6/7・6/29・9/16・10/2・10/13・12/22・1/17・2/15・3/22）

第1回：リーダーズ企画会議（年間計画、キャンプ内容について）

第2回：オリジナルソングの作詞作曲

第3回：キャンプ実施（美都自然の森）

第4回：オリジナルカクテルの試作

第5回：大正大学生との交流会の内容について検討

第6回：大正大学生との交流会、コラボ企画について打ち合わせ

第7回：大正大学生とのコラボ企画

市民運動公園イベント「スポまる」へ出店

第8回：朝市出店について協議

第9回：「わいわい広場」へ出店（オリジナルクレープづくり）

第10回：職場体験（さんさん牧場）

第 11 回：キャンプ実施（田万川温泉キャンプ場）



歴史茶話会

「産業 まちになにぎわいをもたらしたの」



ヨシダリーダーズ

（出店：クレープ作り）

○健康なまちづくり部会の活動を支援

健康なまちづくり部会議（4/9・5/22・9/4・3/11）

健康教室（6/22）「自分の脚で歩き続けるためのけんこう体操」



○まちづくりプラン等の策定支援

- ・令和7年度活動報告・決算報告作成支援のほか、令和8年度活動計画・予算作成の支援
- ・令和8年度～令和12年度の5カ年計画策定支援

○情報共有

- ・会報誌・ウェブサイト・SNSを通じて、活動の共有化を図り、住民自治機能の充実や機能の強化に努めた。

○公民館との連携、各種研修会への参加

- ・公民館とは常に情報共有をしつつ活動を行った。
- ・益田市地域づくりフォーラム他、各種研修会等に参加した。

4. 残された課題と今後の提案

令和7年度は、設立から5年目にあたり、5カ年計画の最終年度となりました。昨年度より協議を進めてきた規約改正案について整理を行い、来年度

の総会に提出できるよう準備を整えました。今回の規約改正案では、住民（会員）が協議会の活動に主体的に参加しやすくなるよう、仕組みの工夫を盛り込みました。

組織運営面での課題としては、後継者問題が挙げられます。現在の運営委員の構成は70歳代が約半数を占めています。次世代となる40～50歳代の委員もいますが、現役世代であるため活動への参加には制約が多い状況です。幸い、次世代のリーダーとなり得る委員は確保できていますが、一緒に活動できる委員の数が絶対的に不足していることが大きな課題となっています。

規約改正案では、住民（会員）が地域課題の解決に参画しやすいよう工夫を施し、定期的に運営委員の募集を行う予定です。しかし、それだけでは住民の積極的な参加を待つ姿勢にとどまってしまいます。そこで、さらに一歩進めて、地域づくりに関する勉強会やワークショップを、公民館と協働しながら楽しい雰囲気で開催できるよう提案したいと考えています。こうした次世代育成に関する取り組みは、次期リーダーを中心に進めていくことが望ましいと考えています。

また、地域マネージャー制度が吉田地区に適しているかどうかについては、次世代の運営委員の間でまだ十分な議論ができていません。そのため、地域づくり勉強会の中にこのテーマを組み込み、議論を深めていくことを提案したいと考えています。

③ 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年は、これまでの5年間の活動を総括し、来年度からの5カ年計画の策定を中心に取り組んだ1年でした。令和3年の自治組織設立当初は手探りでのスタートでしたが、3年目頃からようやく全体の様子が見え始め、当初の構想どおりにはなかなか進まない現実も感じました。しかし、その状況を踏まえ、現状に合わせて組織の形を柔軟に見直すことができたと考えています。

設立時の部会制度では、一般会員が新たに自治組織の活動へ参加しにくい面がありました。そこで、まずは地域課題の調査・研究に誰もが関わりやすい仕組みづくりに取り組みました。また、自治組織が住民にとってより身近な存在となるよう、こちらから積極的に地域へ歩み寄る姿勢を大切にしてきました。忙しい子育て世代の方々でも参加しやすいよう、オンラインの活用など会議のあり方も今後さらに工夫していきたいと考えています。

次の5年間も、私たちのスローガンである「元気いっぱい ひとつながるまち吉田」を大切に、多くの方々と関わりを持ちながら活動を進めていきたいと思えます。

最後に、私は吉田地区自治協議会の皆さんとともに活動できたことで、この1年間がとても充実したものになりました。これからも役員・運営委員、そして住民の皆さんと協力しながら地域づくりに参加していきたいと思えます。また、その活動が楽しく、自然と仲間が増えていくような環境づくりにも努めていきたいと考えています。

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

高津地区

2. 配置年月

平成29年4月

3. 活動の概要

① 活動の内容

<全体として>

- ・役員改選があった。2名新しく役員が入れ替わり、新体制となった
- ・会の方針である「目の前の課題へ、出来る事から」具体的に取り組んだ
- ・情報発信の手段としては、年4回の「広報高津」を発行し地区内へ回覧、高津公民館内に活動の様子を掲示。会議や活動等の様子を随時SNSでも発信、告知端末放送の活用もし、情報発信・周知を行っている
- ・ひとまるフェスタにはどの部会も関わり開催した。今年度も公民館の高津地区文化祭を同日開催し地域が賑わった

<部会活動>

◆歴史・伝統文化の薫るまち部会

- ・今年度も、ふるさと教育デジタルアーカイブ事業に取り組むため、県立大学との共同研究事業を活用し、小学校と連携しながら活用してもらえる教材を作成中。今年度はAIを活用し、デジタル民話を作成。毎年、3年生が高津十景を学習するにあたって、子ども達の興味関心を引き、学習の入口となるようデジタル民話作成（小学校からの要望）出来上がったデジタル民話を3年生に披露した。併せて今年度も、デジタル化した高津十景のチラシを小学校へ配布し周知を図った



また、「高津の街並み」をテーマに高津の街並みが分かる古写真収集をし、動画・写真・資料を地図上にまとめ、高津の街並みや暮らしの変遷がわかるように、次世代に伝える活動に取り組んでいる

- ・螺灯キャンドルを作成し、10/12（日）のひとまるフェスタで高津川沿いを彩るべく、10/1（金）に「歴史をしてひとまるフェスタで灯す キャンドル作り」講座を連理松センターで実施。150個の螺灯キャンドルを作成した。明誠高校生2名が参加し小学生のサポートにあたってくれた。



キャンドル作りに併せて、高津蠟座石臼、松崎の郷の現地説明をし、かつて蠟の生産で潤った高津の歴史と柿本人麿の歴史を学んだ

- ・10/12（日）ひとまるフェスタにて螺旋キャンドルのライトアップで賑わいづくりを創出



◆安全・安心なまち部会

- ・翔陽高校 JRC 部に協力してもらい、「特殊詐欺被害防止教室&スマホ教室相談会」を連理松センターで実施。参加された方が自分の自治会でも開催したいという要望から緑ヶ丘第一自治会、第二自治会、緑ヶ丘南自治会を中心とした地域で、第二弾の教室も行われた
- ・今年度2回、小学生、中学生、中学校教員、地域住民とで高津中学校線路側入り口に翔陽高校の花を植えた。今後も、管理などの事も考えながら、花を植える場所を検討し、花いっぱい運動を進めていく
- ・浜寄地区の通学路に4センチ地盤沈下した場所があった。子どもがつかずきケガをすることもあることから、市へ要望し補修してもらった。今後も、通学路の安全確認を進めていく
- ・10/12（日）ひとまるフェスタにて警備・見守り活動を行った
- ・浜地区の危険箇所（郵便局付近のカーブになっている十字路）で警察、小学校とで朝の登校時間にあわせて交通指導を行った
- ・R8年の入学児童55名分の「いかのおすし」プチタオルを小学校へ贈呈
- ・R3年に設置した持石・三里ヶ浜地区の防犯カメラの動作確認を行った



◆つながり部会

- ・原則毎月第2・第4木曜日10:00~11:00に「ありがた市」を開催。開催から3年目を迎えた
- ・主催として2回目となる「万葉の里ひとまるフェスタ」を10/12（日）に開催。ひとまるフェスタとしては4回目の開催となった。今年度も高津地区文化祭と同日開催し、高津公民館と連携しながら実施した



② 活動の成果及び効果

- ・ありがた市へ今年度も新しく出店仲間・ボランティアスタッフが増え賑わいが増した。今後も集いの場となるよう継続を目指す
- ・今年度も県立大学との共同研究事業を活用し、現在と昔の高津の街並みをマップに落とし込む活動に取り組むことにした。その為に、高津地域の古写真を収集中。また、高津小学校からの要望で高津十景をデジタル民話・紙芝居にし、高津十景を学ぶための入口となるような、教材を作成。出来上がったデジタル民話・紙芝居を披露するため部員が出前授業を行った

- ・毎日の子どもの見守り、ウォーキングをしながらの「ながら見守り」などを呼び

かけ、日々の地域の安全・安心なまちづくりを実践している。また、通学路の危険個所の修復工事も行い、子ども達は安心して登下校ができるようになった

- ・万葉の里ひとまるフェスタを開催。異世代間交流をとおして、人と人との繋がり、根本的な関係づくりを図った。今年度も、高津公民館の文化祭と同日開催し、それぞれに役割をもち、連携しながら開催できた

4. 残された課題と今後の提案

- ・情報発信、住民周知、周知方法
- ・部会でしっかりと協議し、役員会で3部会の活動内容等を共有しながら事業を進めていく。協力できることは互いに助け合う。
- ・関わる、動く人の固定化。一緒に計画、活動してくれる人を増やす必要がある。
- ・部会や会員への負担軽減
- ・他団体との連携

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

設立5年目、今年度は役員改選があり役員が入れ替わり、新しいメンバーで活動をスタートした。メンバーが入れ替わったこともあり、新しい発想も生まれ、部会の活動にも変化があったと感じている。会としての活動はこれまでよりも増えてきたが、関わる人の固定化、動く人への負担が軽減されないのが課題である。

本会の認識を高めること、また、関わる人を増やし、人材確保への仕掛けや取り組みを意識し、活動する必要があると感じている。また、部会体制についてもしっかり協議し、3期目のプラン作りが必要。

今後も、公民館や他団体と協力しながら、「万葉の里 未来の会」の想いや活動が沢山の方へ届いてくれることを願っています。

安田地区

地域魅力化応援隊員 氏名 尼子 達夫

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区
安田地区

2. 配置年月
平成27年5月

3. 活動の概要

① 活動の内容

・平成29年3月18日に臨時総会を開催し地域自治組織を立ち上げ、平成29年4月24日に総会を開催し「地域自治組織安田地域づくり協議会」を設立、平成29年5月18日に自治組織として正式に益田市の認定を受けました。そして、平成30年5月1日付けで一般社団法人化し、平成30年5月24日に安田地域づくり協議会の財産の寄付を受け一般社団法人安田地域づくり協議会として再出発しました。

・令和7年6月5日に一般社団法人安田地域づくり協議会総会を開催しました。令和6年度（第七期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の実績及び決算報告、税務申告書提出、監査報告を行い承認可決しました。次に、令和7年度（第八期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の事業計画案及び予算案について協議し承認可決しました。

・今年度の取組みは、「やすだ村ええもん市」「史跡遺跡整備」「環境整備」「地域内買物支援」の非営利事業と、営利事業の「地域お助け隊」「パンカフェ営業委託」事業があります。今年度11月から新たに非営利事業「安田地区お出かけ支援事業」を開始しました。

『やすだ村ええもん市』事業

安田地域で生産された農作物、手作り品、加工品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生き甲斐づくりと地域活性化を図ります。今年度は7月6日、10月5日、12月7日に開催しました、出店者は毎回20名前後、来場者数200名前後と大盛況でした。また、「駅パンくるくる」の集客を目的として石見津田駅での土曜朝市を毎月第四土曜日の10時から11時30分まで開催しています。毎月第四土曜日開催が定着し、地域の皆様が来店され元気に楽しく交流されている姿をみる事ができています。



『地域お助け隊』事業

地域の高齢化が進み、作業が困難な住民に代わって有償で草刈り・伐採作業を代行する「地域お助け隊」を結成して11年目となりました。知名度も上がり安定して需要があります。地域住民が安心して暮らせる環境づくりと作業従事者の生き甲斐づくりに貢献しています。現在登録作業従事者は男性16名、女性3名、令和7年4月から令和7年12月までの受注件数は111件、うち草刈剪定作業が88件、伐採作業が12件、墓掃除が5件、その他6件です。



『史跡・遺跡整備』事業

旧山陰道、丸山公園の整備を行い、歴史の伝承事業に取り組み保存してきた先駆者たちの業績を周知する事で、地域の方に安田人としての誇りを持たせます。安田地区に残る旧山陰道と丸山公園の草刈を年2回実施しました。木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠、石西トーヨー販売～東町境、丸山公園の4地区で作業しました。

第一回目 令和7年6月22日（日）AM7：00～9：00 参加者：42名

第二回目 令和7年10月19日（日）AM7：00～9：00 参加者：34名



『地域環境整備』事業

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に暮らせる環境を守ります。新たに始めた「コスモスの里づくり」事業では、地域の皆様の力強い作業協力で公民館近くの休耕地にコスモス、彼岸花、水仙を栽培し、景観の美化を進めてきました。今年度は10月12日に絶好の秋日和の下に健康ウォークを開催し、安田地区民のみならず各地区から多くの方々が参加され、終了後は安田婦人会さんが準備された炊き込みご飯と豚汁でお腹を満たし、心地よい一日を過ごされました。



『パンカフェ運営』事業

石見津田駅のパンカフェは二代目の事業者により令和4年2月23日から「駅パンくるくる」として営業を再開し4年経過しました。営業品目は、毎日食いたい「シンプル食パン1斤」と幸せ気分の「ご褒美食パン2斤」、6種のロールパン（プレーン、チーズ、コーン、チョコ、レーズン、ウィンナー）に至福のあんパン、焼きカレーパン、つぶつぶ栗あんパン、こし餡クリームチーズパン、くるみパンを提供し皆様に喜んでいただいています。この「駅パンくるくる」は、石見津田駅舎を改築した店舗と設備一式を「一般社団法人安田地域づくり協議会」が益田市から借り受け、パンカフェ運営を個人の事業者へ委託しているものです。



『地域内買物支援』事業

移動手段を持たない高齢者などの買物困難者のために、梅寿会とひれふり苑の介護施設の車で職員さんが、地域のボランティアスタッフ数名と一緒に毎月第二、第四水曜日に地区内のスーパーでの買物をサポートして下さっています。

また、これとは別に『安田地区お出かけ支援事業』を開始しました。益田市の訪問型サービス・活動D（移動支援）実施団体登録を受け、運営補助金を基に地域住民が主体となって、①通院や買い物等の自宅から目的地間の生活支援を伴う送迎②通所型サービスや一般介護予防事業（高齢者サロンや趣味の活動も含む）者が送迎を行わない場合の支援を行っていきます。



② 活動の成果及び効果

各事業の取組について、「やすだ村ええもん市」事業は年3回開催、石見津田駅での土曜朝市も毎月開催が定着してきました。「地域お助け隊」事業は、収入金額が前年度を上回っています。継続的に依頼され、信頼して頂いていることが実感できます。今後も草刈、伐採作業等の依頼は増加していくものと思われます。「史跡遺跡整備」事業は旧山陰道の保存を主目的に、併せて丸山公園の草刈作業を地区の皆さんに参加して頂いて行っており、当地区の恒例行事となっています。「環境整備」事業は「コスモスの里づくり活動」を行っています。「パンカフェ運営」事業は平成30年4月1日開業以来8年目となりました。「駅パンくるくる」では店舗販売のみならず毎週木曜日は移動販売の日としています。「地域内買物支援」事業では以前からのサービスに加えて新サービス『安田地区お出かけ支援事業』を11月から開始し利用者の皆様から感謝の言葉を頂いています。

また、公民館事業とタイアップして11月29日から令和8年1月4日までの間の安田公民館でのイルミネーション点灯イベントにも準備段階から参加協力しました。

4. 残された課題と今後の提案

後継者の育成は依然として重要な課題です。平成29年4月に地域自治組織安田地域づくり協議会を立ち上げて9年、平成30年5月に一般社団法人安田地域づくり協議会を設立して8年が経過しようとしています。理事、監事、代議員の任期が令和8年6月の総会までで、更新時期となっています。若い世代へのバトンタッチが必須です。「地域お助け隊」の作業自体はベテラン揃いで、効率的に速くこなせるようになってきています。若い人の加入が望まれますが、若い人は本業があり困難な場合が多いです。「パンカフェ」の営業は順調に推移しています。更に良質で安心安全な商品展開で、地域の皆さんに喜んで戴ける店づくりを目指します。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員として地域自治組織の支援をして11年が経過しようとしています。当地域自治組織の収益事業は二事業あり、それらの収入金額はトータルで年間500万円弱です。経費を差し引いても若干利益が出ますので事業運営に必要な資材も調達できています。令和7年度大きな修理ありませんでしたが、益田市から借用中のマツダ2乗用車と軽トラックの車検がありました。今後も工具器具道具類の消耗や修理は発生するので、それに備えて作業資材の備蓄強化に取り組みます。皆さんの日ごろからの心がけのお陰で、事故も無く一年を過ごすことが出来ました。そしてパン屋さんの売上アップにも協力していきます。後継者育成に努め、もう一年間地域の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

鎌手地区

2. 配置年月

令和4年7月から

3. 活動の概要

① 活動の内容

- ・役員会の実施
- ・各部会の会合に参加
- ・かまて地域づくり協議会だより No21～23 発行
- ・公民館活動手伝い
(スポーツ交流会、鎌手地区民文化祭、水仙の里かまてウォーク等)

【思いやり部会】

- ・「お助け隊」草刈、墓掃除、家の片付けなどの事業と唐音水仙公園駐車場の交通誘導と飲み物や水仙の花などを販売。
鎌手小学校・鎌手保育所・鎌手公民館の草刈りボランティアの実施。
水仙公園球根の植え替え作業を実施（協議会全体としての活動）。
- ・「移動困難者の支援を考える会」買い物支援バスの運行（2回/月）午前・午後の2便を継続運行。会員で利用出来なくなった方が増えてきたため新規利用者の募集活動をにこにこマーケットなどで実施。
- ・通院支援に関する話し合いの継続

【ひとつづくり部会】

- ・U-15 カマテミーティングをビヨンドミーティングに変更、（高校生も参加できるようにと内容を変更）を実施
- ・夏休みにお化け屋敷を実施
- ・にこにこマーケットに参加
- ・地域の他団体とのコラボ（青少協、食改、民生児童委員会）
- ・公民館活動への参画（中学生対象イベントに協力）

【魅力づくり部会】

- ・「coffee work shop」の継続実施
 - a. 他地区との交流（北仙道、二条、七尾まつり等）
 - b. かまカフェを昨年同様に実施
 - c. 地域行事への参加（文化祭、水仙ウォーク）
- ・SUP体験会の実施、7月～9月に通常の体験会に加え早朝や夕焼けの体験を企画実施
- ・ユタラボ主催の「大正大学実習」・「早稲田大学生研修」・「東大生研修」に協力してかまての取り組みを体験してもらった。

- ・かまての水仙をアピールするアイテム（ハーバリウム、キーホルダーなど）の製品化を試行。

② 活動の成果及び効果

【思いやり部会】

- ・「お助け隊」の依頼件数は令和7年度は160件を超え、活動期間も伸びています。内容も草刈・墓掃除・家の片付け・耕作地の整理・水仙球根の植え替えなど多様になって来ました。
- ・「移動困難者を支援する会」では今年度も2回/月、午前・午後の移動支援バスの運行を実施しました延べ約360名の方が利用されました。

〔お助け隊作業の様子〕



〔移動支援バスの様子〕



【ひとづくり部会】

- ・今年度はU-15カマテミーティングをビヨンドミーティングと改め中学生だけでなく、高校生も参加しやすいようにしました。昨年好評だった「お化け屋敷」を今年も計画、夏休みに実施しました。昨年よりレベルアップして大変盛り上がりました。
- ・地域とのつながりを深める活動として、にこにこマーケットに参加し、ピザなどの販売やチャームラボのコーヒー販売の手伝いなどをしました。

〔お化け屋敷〕



〔にこにこマーケット〕



【魅力づくり部会】

- ・「coffee work shop」では今年度も「かまカフェ」を鎌手6地区で実施し、その地区の人達だけでなく、他の地区からも参加する人が増えて来ました。
- ・今年度も他地区のイベントに参加してコーヒーを通じて鎌手地区のアピールを実施しました。「七尾まつり」「石見スイーツフェス」にも参加しました。
- ・SUP体験は通常のカフェに加え、今年も朝SUPを実施、またサンセットSUP体験会も実施して鎌手の海の良さを体験してもらいました。

〔かまカフェ in 金山〕



サンセット SUP 体験〕



4. 残された課題と今後の提案

【思いやり部会】

- ・お助け隊の活動で、平日に作業をする部員が固定されている為、負荷が大きくなっている。昨今70歳以上でも仕事についている人が増えている中でいかに平日に作業出来る部員を増やせるかが問題である
- ・移動支援バスは現在市内スーパー（キヌヤ中吉田・本店）に行っているが別の店のニーズが有るのかを確認して、新しく行先を増やした方が良いのか検証していく必要がある。
- ・通院支援に関しては、住民にアンケートを実施した結果ニーズはありそうだが鎌手地区の問題として送迎用の車と運転手をどのように確保するかが現時点での課題となっている。今後も安田・北仙道の状況を確認しながら検討をしていく。

【ひとづくり部会】

- ・ビヨンドミーティングとやり方を変えて実施したが、中・高生の集まりは今一つだった。いかに子ども達に参加してもらえるようにするか検討が必要。
- ・第2次まちづくりプランでは、地域との繋がりを作る部会としての役割も増える如何に地域の団体との繋がりを作るのかを考えていく必要がある。

【魅力づくり部会】

- ・今年も各地区のイベントにコーヒーを出店しましたが、参加するメンバーが固定化しているのも事実で、更に新しい企画を立ち上げたりとメンバーの負担が増えているのを感じます。新しいメンバーを呼び込む必要があると思います
- ・SUP 体験もリピーターが多くなり、関係人口を増やすという目的もあるので如何に回数を増やし新規の参加者を受け入れられるか検討する時期に来ていると思う。又備品も5年を超えて更新が必要なものが出始めている、予算をどうするか検討が必要。
- ・次の5年間の活動として地域自治組織の入り口的な役割も担うので如何に地域にアピールするかが大事となる。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は、まちづくりプラン改訂の為に世代別ワークショップを開き各年代がかまてにどの様な思いを持っているかを確認して将来ビジョンを決めていきまし

た。また各部会の立ち位置を今後どのようにしていくかもユタラボの協力の元進めて来ました。メンバーのかまてを良くしたい思いを受け来年の総会では承認頂けるように進めて行きます。また通院支援については再度地域の皆さんにアンケートを実施して皆さんの意見を確認し、やはり今後の必要性を確認できました、鎌手地区の問題として他の3地域が車両をもっているが鎌手には無いのとドライバーを探す事が今後の課題となっています。今後も協議会や地域の人達に頼ってもらえるよう業務を進めていきます。

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

豊川地区

2. 配置年月

平成26年4月1日から

3. 活動の概要

①活動の内容

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・地域自治組織の支援（各会議・定期総会の開催、運営の支援・調整等）
- ・まちづくり活動の支援（公民館との協働、関係諸団体との連絡・調整等）
- ・第3期まちづくりプラン（2023～2028）・視察対応等 ・研修会等
- ・益田市まちづくり活動交付金（申請、年度末の報告、経理等の提携業務等）
- ・益田市まちづくり特別補助金（審査会、〃）
- ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援（会議、運営の支援・調整、経理等）

II. まちづくり活動計画

- ・令和7年度も5ヵ年計画の「まちづくりプラン」を軸とした各事業の実施を視野に豊川らしい「ひとづくり・まちづくり」を旨とした活動を実施する。
- ・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）
 - ★すたでいスペースとよかわ（寺子屋）の運営 ★中高生の活動の支援
 - ★マスタひとまちカレッジの運営 ★保小中の活動の支援
 - ★「とよかわの家」の管理運営 ★「とよかわゴン」の管理運営
 - ★地域支援体制についての検討 ★多世代交流と地区内外との交流
 - ★歴史的遺産の保存 ★地域内外への情報発信
- ・まちづくり部会（自治会との連携）
 - ★各自治会との連携の推進（活動内容の周知・協力）
 - ★安心して暮らせるまちづくり（自主防災対策・鳥獣対策）
 - ★定住対策の実施（定住対策の検討・実施）

②活動の成果及び効果

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・とよかわの未来をつくる会 役員会の開催
 - : 第1回 令和7年 5月14日（水）19:00～
 - 豊川公民館にて役員11名 他5名 計16名にて開催
 - ★役員改選及び組織体制について
 - ★定期総会の説明（次第、事業報告、決算報告概要等）
 - ★ワークショップ「豊川あったか対話」説明・検討
 - : 第2回 令和7年 6月11日（水）19:00～
 - 豊川公民館にて役員12名 他5名 計15名にて開催
 - ★定期総会の説明（次第、事業報告、決算報告概要、ワークショップ「豊川あったか対話」、アンケート実施、等）

- ・とよかわの未来をつくる会 定期総会の開催
: 令和7年6月29日(日) 13:30～ 豊川小学校体育館
★定期総会では通常の議題の他、参加者約120名(小学生含む)によるワークショップ「とよかわあったか対話」開催。総会についてのアンケート実施。
- ・とよかわの未来をつくる会 会議開催状況
: 役員会5回、三役会2回、ひとづくり部会4回、まちづくり部会を5回開催予定。
将来のビジョンとして掲げる「まちづくりプラン」を引き続き実施。より住み良い豊川を目ざして各部会により事業を展開
- ・益田市まちづくり活動交付金(650千円)
: 運営費及び事業費等、各部会の活動支援に充当
- ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援
: ひとづくり部会と連携し4回の会議を開催予定
★事業活動 小中高生放課後事業(とよかわっしょい!!)、益田東中学校6かるチャレンジ等、地域のボランティア団体との活動を実施及び支援



第1回 役員会



定例総会

II. まちづくり活動計画

- ・ひとづくり部会(つろうて子育て推進協議会との連携)
★すたでいスペースとよかわ、とよかわ寺子屋の運営
夏休みには「すたでいスペースとよかわ」にてウナギの仕掛けづくり教室を始め、そうめん流し教室、小学生×高校生対話活動など13種類の様々な教室を開催。地域内外での積極的な交流を実施した。冬休みには書初め教室等を開催し、こども達の主体的な学びを深める活動を展開
★中高生の活動の支援
益田東中学校6かるプロジェクトや6かるチャレンジ等の地域学習の支援。地域の団体と活動体験を実施。地域を支えている方々と交流を図る。
とよかわっしょい!!の放課後活動の支援。地域を元気にする活動を展開。
★多世代交流と地区内外との交流
地区内の世代間交流は小学校・公民館での地域活動を通して図れた。地区外の交流についてはライフキャリア教育等により「とよかわの家」を介した大学生との交流や県内外からの視察を通して実施できた。
★「マスタヒとまちカレッジ とよかわキャンパス」の運営
学びと活動の成果発表の場である豊川地区文化祭の実現に繋がる教室として、あらゆる世代が楽しく学べる講座を企画「プラモデル教室」や「とよかわオープンカフェ」を開催。
★保小中の活動の支援

社会教育コーディネーターと連携し益田東中学校の職場体験、6かるプロジェクト、大学生とのコラボ等を実施。「ふるさと教育」の活動を支援。

★「とよかわの家」管理運営

UI ターン関連としての利用は4件。地域実習関連として早稲田大学をはじめ7大学が利用。本来の目的である関係人口の促進及び拡大が図れた。

五右衛門風呂体験や視察等により一年を通じた運営が見込まれる。

★「とよかわゴンの運営管理」

百歳体操等高齢者介護予防や生活支援に繋がる事業、小学校、保育園の交流活動や文化祭、シニアカフェ等、各イベントでの活用が図れた

★地域支援体制についての検討

「草トーーーク、」の実施。長年活動してきた高齢者ボランティア団体の解散がきっかけで始まった企画。他地区の方々との「草抜き」での交流により新たな発想や地域活動のヒントに繋がっている。

★歴史的遺産の保存

地区の方々の協力を得ながら遺跡見学路等の整備。倒木処理、除草作業により環境保全や維持管理を実施。

★地域内外への情報発信

豊川地区の魅力をHPやフェイスブック、インスタグラム等により地域内外へ情報発信する。

・まちづくり部会（自治会との連携）

★各自治会との連携の推進

定例の会議及び本会のだより（隔月発行）、チラシ等の作成・配布により活動内容の周知、情報発信を図る。

★安心して暮らせるまちづくり

「PTCA 防災キャンプ」や「保・小・公合同避難訓練」に参加。避難所運営ゲームや段ボールベッドを体験。また、園児・児童・公民館利用者の安全確保や地域との関係確認により防災への取組みや意識の向上を図る

★定住対策の実施

空き家バンクの登録を目指し、空き家調査を実施。新たな空き家カルテを作成中。他に自治会未加入者への対応方法など各地区で情報共有を行う。



ウナギの仕掛けづくり教室



和茶茶×養護学校（茶摘み）



保・小・公合同避難訓練

4. 残された課題と今後の提案

I. 地域自治組織に関わる業務

本年度は自治組織設立9年目となり、地域の将来ビジョンを示す「まちづくりプラン」および課題解決に向けた「まちづくり活動計画（5か年）」を柱として、より良い地域運営のあり方を探りながら取組を進めてきた。これまで推進してき

た「ひとづくり」を中心とした地域づくりに加え、地域を維持・発展させるための「まちづくり」の基盤整備も、着実に進展している。

来年度においても、地域住民が生活や地域活動の中で抱えている課題を共有し、その解決に向けて「まちづくり活動計画（5か年）」を軸に事業を継続して実施する。地域運営の仕組みづくりのさらなる充実を図り、住民が心をひとつにして夢と希望を持ち、より活力ある住みよい豊川の実現に向け、取り組みを深化させていきたい。

II. まちづくり活動計画

本年度も、将来ビジョンを掲げた「まちづくりプラン」および課題解決に向けた「まちづくり活動計画」を基軸として、地域運営を進めた。地域の課題を住民間で共有し、計画的な活動により解決を図る取組を継続してきた。これまで重点を置いてきた「ひとづくり」に加え、地域維持の観点から「まちづくり」の仕組みをさらに強化する必要がある。

・ひとづくり部会

本年度は、「すたでいスペースとよかわ」や「マスダひとまちカレッジ」を中心に、多世代が交流し学び合う場を継続的に提供した。特に、地域の担い手発掘や育成を意識した活動に努め、学校との連携を通して地域と学校が学びを共有する機会を広げることができた。また、社会教育コーディネーターとの協力により、教育支援としての連携も強化された。

今後は、地域人材育成の流れを整理し、活動や成果を住民と共有する仕組みを整えることで、より多くの人に関わりやすい体制づくりを進めたい。

・まちづくり部会

本年度は、本会の事業内容や地域の取組を住民に分かりやすく伝えることに努めるとともに、空き家対策、鳥獣被害防止、自主防災対策など、地域が抱える課題への対応を進めた。住民から寄せられた意見を踏まえながら地域活性化を図り、地域自治組織としての役割発揮に努めた一年となった。

今後は、住民参加型の意見交換の場を定期的に設けるほか、外部専門家の助言も取り入れ、課題解決の実効性を高める取組を検討したい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年度は通常業務に加え、地域行事、公民館、小中高との連携を通じて地域理解を深め、住民との交流を広げることができた。自主事業として実施している「パソコンカフェ」も継続開催し、住民の学びと交流の場として定着しつつある。また、「豊川地区拠点整備事業」に基づく公民館等の建替え準備が進む中、事業運営にも調整が必要となったが、公民館と連携しながら事業を安定的に進めた。

豊川地区に配属されて12年が経つ。自治組織も地域住民や公民館の支援、協力により順調に推移。他地区では法人成りや地域マネージャー制の導入も進み、取り残された感はあるが、引き続き豊川の為に協力したい。

今後は、拠点整備に合わせて活動内容の整理や役割分担を明確にするとともに、学校・公民館・住民が協働しやすい体制づくりを進めたい。また、応援隊員としての取組や成果を分かりやすく示し、地域への情報発信を強化していきたい。

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

真砂地区

2. 配置年月

令和5年11月から

3. 活動の概要

① 活動の内容



I 地域自治組織に関わる業務

◇地域自治組織の支援

役員会、定期総会、会計、各部会の活動、自主防災団体真砂や各種団体との調整、備品管理等

◇本部事業の実施

各種イベントにて出店・無料送迎の調整、ひら山のふもとカフェ tele-glueの施設管理、イベントの企画・運営や引っ越し手続き等

◇情報発信・各種おたより、チラシの作成、発行、SNS等

II 複合施設（小学校・保育園・公民館）に関する支援

- ・情報発信
- ・各種団体、行事やイベントの支援

III イベント実行委員会

- ・委員としてイベント開催について協議、開催準備、チラシ作成等

IV 視察対応・資料作成・日程調整等

② 活動の成果及び効果

I 地域自治組織に関わる業務

・各部会の支援

支え合い部会…ふれあいサロン支援（毎月1回）

送迎付き高齢者サロン。お花見やお買い物、ひぐらし苑利用者との交流、制作等。買い物支援・移動支援・引きこもり対策

学び合い部会…焙煎を通じた多世代交流 1/10 とんど焼きの際、子どもたちと一緒に地域の方へ焙煎珈琲を提供し多世代交流を実施

きずな部会…桜の管理講習会 11/30

桜の管理作業 2/15

お泊り会（夏休み・冬休み）



ふれあいサロン（4月）



コーヒー豆焙煎



さくらの管理講習会

・本部事業の実施

① 日用品販売等に関わる活動。

真砂地区には商店がないため、生活用品等を販売。ひぐらし苑利用者からの注文や高齢者の利用が多かった。また、公民館事業の手芸教室に合わせて馬谷地区の城山会館での出張販売も月に1回実施

② お楽しみイベントの実施

◎モノづくりワークショップ 7/18～10/3 の期間中、10日間実施

午前中はレジンで小物づくり、午後はネイル等。子どもから高齢者まで計66名の方に楽しんでいただき、インターン大学生の受け入れも行った。

◎夏のお楽しみ会 8月1日（金）

小・中学生を対象に実施。アイスクリーム作り、昼食作り、光るうちわ作りを行った。また、アイスクリーム作りは子どもたちが地区内のリサイクルプラザで収穫したブルーベリーを使用した。

◎アイスクリーム作り 8月2日（土）

地区民を対象に実施。出来上がったアイスクリームは翌日の複合施設環境整備後、みんなで美味しくいただいた。

◎ハロウィンイベント 10月31日（金）

塗り絵や飾りを作ってきた方を対象にお菓子のつかみ取りを実施。小学校・保育園・地区民等、計93名と大勢の方に楽しんでいただき、色々な装飾でてれぐれえを飾り付け賑やかなイベントとなった。また、小学生と一緒に複合施設玄関とてれぐれえに行ったバルーンアートがとても好評だった。

③ 移動販売の日程調整、販売手伝い、チラシ作成等

4月… 4/14、4/21、4/28

5月… 5/19、5/26

6月… 6/9、6/23、6/30

7月… 7/7、7/14

8月… 8/4、8/18

9月… 9/8、9/22、9/29

10月…10/6 ※1

11月… 11/17

12月…12/8 ※2

1月… 1/19、1/26

2月… 2/2、2/9、2/16

3月…3/9、3/16、3/23（予定）

※1 ローソンの移動販売車が修理のため実施回数が1回となった

※2 熊による人身被害があったため、実施回数が1回となった

④ 各種イベントにて出店・送迎の調整

- ・ さくら祭り 4月6日（日）送迎バスの調整、駄菓子屋出店
- ・ 納涼祭 8月14日（木）送迎バスの調整、カフェ駄菓子屋出店
- ・ まるごとフェスタ 11月16日（日）送迎バスの調整、駄菓子屋出店
- ・ 保育園発表会 12月7日（日）送迎バスの調整

⑤ ひら山のふもとカフェ tele-glue の施設管理、イベントの企画・運営等

- ・ 駄菓子屋 毎週2日実施（月・金）
- ・ お気軽カフェ 診療日に合わせ、週1日実施（火 or 金）



モノづくりワークショップ



ハロウィン①



ハロウィン②



お楽しみ会



移動販売



駄菓子屋

- ・ 情報発信・各種おたより、チラシの作成、発行

おたより…tele-glue だより・ときめき通信・すまいる通信

チラシ…移動販売予定表・さくら祭り・納涼祭・まるごとフェスタ・
桜の管理講習会等

真砂ぷらす ホームページについて協議 12/10

ホームページの修正、更新、インスタアカウント開設、更新

Ⅱ 複合施設（小学校・保育園・公民館）に関する支援

- ・ 情報発信

小学校・保育園・公民館・自治組織の活動の様子をまとめてスライドショーを作成し、複合施設玄関で展示。来客だけでなく、子どもたちや保護者も楽しんでいる。

- ・各種団体の活動や行事、イベントの支援
- 小学校・保育園行事をはじめとしたイベントでの写真撮影
ふれあいバス事業（暁ほほえみ福祉会）の付き添いや現地での手伝い。
公民館事業（ゆったり運動教室・手芸教室・ボラハ・6かる等）での手伝いや
カフェ提供。
- ・複合施設周辺環境整備 5/25, 8/3
 - ・蛇滝清掃 7/6

Ⅲ イベント実行委員会

- ・イベント実行委員会 5/20、9/24、1/28、3/12 予定
- さくら祭り 4/6 真砂地区大運動会 6/7
- 真砂まるごとフェスタ 11/16 さくら蘇生作業 2/15 予定
- 桜ライトアップ 3月末～4月上旬予定

Ⅳ 視察・取材対応

- ・筑波大学 7/4
- ・文科省 10/10
- ・青垣福祉会（兵庫県） 10/27
- ・秋田県立大学・下岩川地域づくり協議会 10/30
- ・岡山県真庭市民生児童委員 10/31
- ・広島大学 12/8
- ・久万高原町教育委員会 12/23
- ・山口県萩市社会福祉協議会 3/24 予定

4. 残された課題と今後の提案

年々深刻となる人口減少、高齢化。児童・園児数が少なく、保育園や小学校の存続に関わってくる状況。早急に空き家の整備をはじめ、移住定住に繋がる活動を増やしていきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度はモノづくりワークショップやアイスクリーム作り等の新しいことにチャレンジした。子どもから高齢者まで楽しんでくださる方が多かった。昨年度好評だったお楽しみイベントも継続して実施し、地域の中で「今年もやるの？楽しみにしてるね」という声を聞くことも多く励みになった。

また重いテーマでもあるが地域の今後について考え、向き合う時間も多かった。空き家活用や移住定住対策等、しっかりと協議を行い、自治会や公民館とも連携し、次年度の活動に繋げていければと思う。

西益田地区

地域魅力化応援隊員 氏名 松蔭 保

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区
西益田地区

2. 配置年月
令和7年4月

3. 活動の概要

①活動の内容

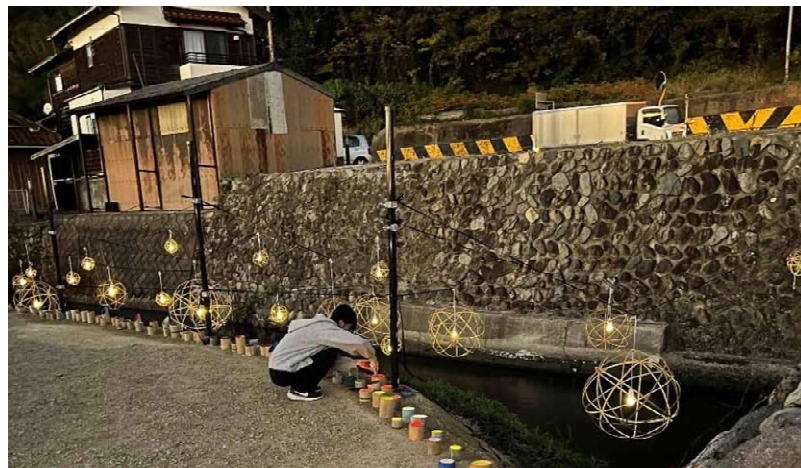
西益田まちづくりの会（地域自治組織）の運営

スローガン：一人ひとりが輝く いいまちにしますダ!!



1) 運営委員会

- ・「西益田まちづくりの会」の全体運営
- ・各検討委員会の活動の確認、統括、事務処理等
- ・地域団体や実行委員会との連携
- ・毎月発行する「たより」による広報活動
- ・まちづくり活動特別補助金の相談対応等（プレゼン含む）



活動特別補助金で整備された支柱

2) 地域振興検討委員会

- ・スローガン：つながりを大切にしよう。つながりをつくろう。
- ・テーマ：「楽しみ（笑顔）」や「賑わい」をつくろう
西益田の資源の活用と開拓
- ・「おかえりなさいのぼり旗」の継続支援
- ・イルミネーションの設置・撤去活動
- ・空き家の活用と対策や啓蒙活動

3) 次世代育成検討委員会

- ・スローガン：みんな（多世代）をつないで、これからの西益田をつくろう
- ・テーマ：世代間で交流をしよう
人のネットワークを広げよう
- ・きらりライド（自転車イベント）の継続開催
- ・灯火祭の開催支援



灯火祭の様子

4) 地域福祉検討委員会

- ・スローガン：声をかけあい、支えあおう！
- ・テーマ：暮らしのサポート
心と体の健康
- ・買い物支援として、ローソン号の西益田公民館での展開支援
- ・終活についての啓蒙活動
- ・買い物支援についての多方面からの検討

5) 地域安全検討委員会

- ・スローガン：安全・安心なまちをつくろう
- ・テーマ：安全・按針・笑顔で暮らせるまちづくり
鳥獣害からの被害が少なくなるよう検討・対策をする
- ・防災学習会の開催
- ・鳥獣被害対策学習会の開催
- ・西益田地区文化祭での防災グッズ展示・配布と啓蒙活動
- ・自転車の安全に関する啓もう活動と検討



鳥獣被害対策学習会の様子

②活動の成果及び効果

1) 運営委員会

- ・7年目を迎えた西益田まちづくりの会の、全体の運営・統括を行い、各検討委員会への支援を行った。
- ・まちづくり活動特別補助金の統括として、水神森整備事業を計画し、管理担当課と連携をして整備を進めた。これにより、西益田地区の大きなイベントである「灯火祭」を安全な環境で開催することができた。

2) 地域振興検討委員会

- ・空き家対策については、①空き家について考える啓蒙活動として、昨年同様にチラシを全戸配布した。これにより公民館への問い合わせもあり、空き家についての啓蒙活動はひと通りの成果が上がっている。また、空き家についての勉強会を開催することができ、大きな反響があった。継続して開催する方向で検討している。
- ・「おかえりなさいのぼり旗」設置活動やイルミネーションの設置活動は、地域住民より好評で、継続できるよう検討を進めている。



イルミネーション設置

3) 次世代育成検討委員会

- ・昨年から開催している自転車イベントは、開催時期に不安が残るが、概ね成功している。参加者からは好評なため、引き続き開催できるよう検討していく。なお、今年の試みとして、市のスポーツ協会とのコラボを実現した。
- ・灯火祭は、今年度も拡大を続け、多様なイベントが盛り込まれて、先に書いたように水神森が整備されたことにより、より地域住民のつながりを強め、地域の重要な祭りに育った。



きらりライドの様子

4) 地域福祉検討委員会

- ・買い物支援として継続してきたローソン号が、ローソン側の都合により中断となった。これに代わる施策としてバスツアー等も検討したが、地域の要望とのズレを認識して、開催に至っていない。

5) 地域安全検討委員会

- ・防災と鳥獣害対策の2本柱は、今年も開催することができ、さらに継続していけるよう検討を進める。
- ・今年度の新たな取組みとして、地区の文化祭での防災グッズの展示・配布を実施した。同時にまちづくりの会の活動についても案内することができ、各検討委員会への展開も視野に進めていく。

4. 残された課題と今後の提案

- ・検討委員会においては、活動の活性と規模に差があり、各検討委員の熱量も違っている。検討委員会の再編成も含めて、来年度の課題の一つ。なお、これは西益田まちづくりの会会長も感じておられ、来年度1年を通じて話し合うこととなっている。西益田まちづくりの会の拡大合同会（2月開催）において、検討委員会の再編成を含めて検討をする必要があるとの意見があった。会長とも常日頃から同様の事を話しており、来年度以降に再編成をすることも検討していく。
- ・同様に、空き家対策について、まだまだ住民の啓蒙活動が不足していると感じる。チラシを全戸配布しているが、当事者意識は低い。勉強会を開催したところ、好評であったため、継続して開催する。また、西益田まちづくりの会の拡大合同会において、空き家対策はひとつの検討委員会だけではなく、色々な人を関わるようにして検討していくべきとの発言があり、こちらも再編成を検討する。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

1年目という事もあり、分からないことだらけではあったが、大きな問題もなく運営できたと感じる。何よりもまず、地域住民の方々とのコミュニケーションに力を入れ、話しやすい環境を作ることができた。信頼して頂けている自治会長などからは、直接相談を持ち掛けられたりもした。ただし、引継ぎも十分ではなく、年度末になって確認が必要となる項目もあり、事務局が一人と言うのは作業の正確性からも難しい気がしている。

西益田まちづくりの会の運営（各検討委員会の開催準備と議事録作成等）以外にも業務がある。①公民館などの主催イベントの手伝い②まちづくりの会主催イベントの運営（前述と部分重複）③実行委員会形式のイベントの手伝い（ほぼ中心を担う）④所有する草刈機5台の運営（貸出やメンテ）⑤まちづくりの会の衣類販売⑥公民館窓口業務と、来年度に向けて整理し、事務処理を円滑に、また簡素化するよう進めている。

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

二条地区

2. 配置年月

令和7年12月から

3. 活動の概要

①活動の内容

■地域自治組織「二条里づくりの会」にかかわる業務

役員・運営委員 20名（ひと部会、なりわい部会、くらし部会・つろうて班）

- ・役員会、定期総会の運営支援（資料作成ほか）
- ・地区内外への情報発信
- ・西部圏域支え合いづくり協議体（第2層協議体）への参加
- ・会計、事業報告（まちづくり活動交付金、まちづくり活動特別補助金 他）
- ・備品管理（貸し出し、メンテナンス）
- ・地域づくり関連イベントや各種研修会への参加

■各事業にかかわる業務

- ・移動販売：訪問スケジュールの把握・周知、設営
- ・移動支援：利用予約やドライバー（ボランティア）発着対応などの運行管理
- ・鳥獣対策：鳥獣被害防除隊捕獲班との連携
- ・里山環境の保全：活動の把握と成果の共有、耕作放棄地の把握
- ・地域防災：講座や体験会の実施、当会防災備品の活用
- ・移住定住促進：Webサイト制作や専門機関との協働体制構築など伴走支援

■公民館ほか各主体との連携

②活動の成果及び効果

■地域自治組織「二条里づくりの会」にかかわる業務

- ・令和7年度 二条里づくりの会 定期総会（前任者担当）
5月17日（土）二条公民館ホールにて開催。
└出席者 24名、委任状 95通。前年度事業報告および収支決算・監査報告。
また、今年度事業計画案・今年度予算案について承認された。
- ・役員会
役員 9名、事務局 2名が出席し、計 5回実施（見込み）。
- ・二条里づくりの会だより（第68号～第71号を担当）やチラシの発行。
└主催・協力イベントの参加呼びかけには地区内への告知放送も行い、参加者の増加につながった。

- ・備品の貸し出しでは薪割り機一式がおもに冬季、地区内外にて活用された。
- ・第20回ひとづくり・地域づくりフォーラム in 山口（地区内参加者6名）他。



▲ 二条里づくりの会定期総会



▲ 薪割り機の活用



▲ 小さな拠点づくりフォーラム
オンライン参加

■各事業にかかわる業務

- ・移動販売：買い物空白解消を目的として公民館前にて実施。
 - ┌時期により利用者の増減はあるものの、毎回複数人の利用があり、広報だけでなく住民間の口コミによっても利用が広がっている様子。
 - ┌移動スーパーとくし丸 毎週月曜日 10:40～11:00、宮田石油店（冬季の灯油販売）、ローソン益田高津店 毎週木曜日 13:00～13:30
 - ┌5月9日（金）にのぞみの里と共同でバスツアー「のぞみの里へ来て！見て！買って！」を開催（前任者担当）。7名の参加者がのぞみの里を訪問し夏野菜や花の苗などを購入。また、職員や就労されている方々との交流も図られた。
- ・ごみ袋販売事業：事務局が公民館窓口にて市指定ごみ袋を販売。
- ・移動支援：交通空白解消を目的として市内への送迎サービスを実施。
 - ┌通院・買い物利用に限定して令和6年11月より開始し、令和8年1月までに計83件の利用があった。事務局で集計した利用データは他自治組織との情報共有や行政への報告に活用したい。
- ・鳥獣対策
 - ┌11月10日（月）に島根県西部農林水産振興センター協力のもと「クマから身を守る研修会」を桂平小学校体育館にて開催（応援隊員不在期間）。
 - ┌2月11日（水）に鳥獣被害防除隊捕獲班の班員を対象にイノシシ・シカ用くりわなの運用説明会を実施した。
- ・里山環境の保全
 - ┌横山城応援隊によって“城山”周辺（ウォーキングコース等）の環境整備が4回（見込み）行われ、4月20日（日）には爽やかな空気のなか連合自治会主催での「横山城址健康ウォーク」が開催された。
 - ┌県道14号や生活道路沿いの耕作放棄地について、聞き取りや撮影を開始。情報を集約し、着手するエリアの選定に活かしたい。
- ・地域防災：二条の地域特性にフィットした防災の取り組みを実施。
 - ┌桂平小「収穫祭」（つろうて班主催）では、二条地区の稲作が盛んな点に着目した防災備品の火盆まかないくんを調理で活用した。
 - ┌12月8日（月）に地域自治組織匹見上清流の郷より10名の視察団を迎え、くらし部会より”日常の中に無理なく防災を取り入れる”工夫について紹介し意見交換が行われた。
 - ┌3月開催予定の「なんもせんのにじゃ～合宿」では公民館での避難所体験と併せてNPO法人石西防災研究所の協力のもと車中泊避難体験を計画。

- ・若い世代の二条移住を促すプロジェクト：まちづくり活動特別補助金を活用。
 〓なりわい部会長のリーダーの呼びかけで所属の垣根を越えてメンバーが集まり、県外視察やミーティングを経て子育て世代をターゲットに移住定住促進を目的とした Web サイトの制作を行った（今春公開予定）。
 〓制作過程で行った地域の方々との掲載写真撮影会・交流会や聞き取り・テキストの提供によって、地域の情報集約も進められつつある。



▲ 移動販売の様子



▲ 移住プロジェクト会議の様子



▲ 横山城址健康ウォーク



▲ 収穫祭での大釜活用



▲ 視察受け入れ（匹見上地区）



▲ Web サイト制作（撮影）

■ 公民館ほか各主体との連携

- ・ふるさとひとつなぎコーディネーターや公民館と連携した交流の場づくり
 〓2月11日（水）、講師2名（工藤尚悟氏、廣畑達也氏）を招いた「〈わたし〉からはじめる地方論 講演会」では地域住民を中心とした40名以上の参加者が暮らしの中で感じている思いを共有する対話の場が設けられた。課題ではなく一人ひとりの「やりたいこと」にフォーカスし、今後の地域づくりのヒントを地域の声から拾い上げることができた。（担当：進行ほか）
 〓お菓子や飲み物を各自で持ち寄る「勝手にカフェ」を月1回、移動販売（とくし丸）の時間に合わせて開催。参加のハードルを下げる工夫によって、これまでの買い物利用者同士の交流に加えて地区外からの来訪者とも交流が生まれている。
- ・公民館ほか地域主体による地域行事への参加。
 〓歴史読みあわせ教室（公民館）、百歳体操（二条健康づくりの会）、消防出初式（消防後援会）、桂平小での放課後ボランティアハウスや二条キャンパス、学校運営協議会（見学）へ参加。自治組織の外へ出向き、顔を合わせてのつながりづくりを今後も続けたい。



▲ 〈わたし〉からはじめる地方論講演会でのグループワーク



▲ 公民館前での勝手にカフェ



▲ 二条キャンパス（書き初め）

4. 残された課題と今後の提案

・地域拠点整備をきっかけとした今後の小さな地域の拠点について

- ┌ 桂平小学校が“多世代の営みが交錯する場”として皆が足を運びやすい明るい場所になるよう、どういう過ごし方ができれば心地いいのかを地域住民自身が考えていくことも必要。まず自分が活用に向けて前向きな思いで取り組みたい。
- ┌ 公民館・コーディネーターとも連携しながら、地域住民から声が多く上がった店舗「セボン跡」の活用を模索したい。1日～数日の開放をめざし、ノウハウを持つオーナーや地域の人と一緒にかたちにしていきたい。

・二条里づくりの会 体制の見直しについて

- ┌ 設立後長期間が経過し、役員の高齢化や実働人員の固定化、設立当時の部会と現在の取り組み実態とにギャップがみられる。部会制を改める如何にかかわらず、地域全体で地域の未来のビジョン「まちづくりプラン」を考え共有する機会を設けながら、フレキシブルに事業立ち上げ・進行ができる体制をめざし、地域づくりの担い手の世代間連携の強化にもつなげられればと考えている。

・耕作放棄地や放置竹林に対するアプローチについて

- ┌ セイタカアワダチソウやクマザサに覆われた休耕地が多くみられる。役員から「何かしたい」との声が上がっているが根気が必要な課題であるため、ゴールとする風景から、エリアの選定やフェーズの設定を行いたい。

・交通空白、買い物空白に対する支援について

- ┌ 移動支援については可能ならば他地区ともデータ集約を図り、制度の緩和や仕組みづくりを見据えて行政への報告を継続する。
- ┌ 移動販売については地域拠点整備後の開催内容など検討していく必要がある。

・子育て世代の移住定住促進と受け入れ態勢の整備について

- ┌ 地域内の住まい（空き家を想定）に関する情報の集約と、移住検討者を迎えるにあたってスムーズに市・県・定住財団といった行政や支援に繋げられるような受け入れ態勢の整備が急がれる。
- ┌ 小学校と連携した催しやオンライン見学会を検討したい。また、市内全域で移住検討者との機会の共有ができればと考えている。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は、応援隊員が不在のあいだも公民館が地域活動に伴走し、地域拠点や移住定住促進活動事例の視察、INAKA ライドのエイドステーション設営（当日中止）、二条ふれあい祭りへの参画など、さまざまな活動が継続して行われました。

私自身の応募のきっかけは「今まで知れなかった地域を知りたい」「里山に関わりたい」という素朴な動機でしたが、二条へ通う日々の中で、この地域とのつながりがかけがえのないご縁だと感じています。外から来た私をあたたく迎え入れてくださった二条の皆様には、とても感謝しています。

一人で黙々とやるのは報告書くらいにして、飛び込んだ先で気づきをいただきながら、応援隊員としての伴走のあり方を模索していきたいです。二条をより楽しく暮らせる地域にしていけるよう、皆様とともに活動していきたいと思っております。

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

美濃地区

2. 配置年月

令和7年6月

3. 活動の概要

①活動の内容

[はつらつ美濃の里・まちづくりプラン（第3期）]

- ・住民同士の「結い」を促し、支え合えるまちづくり
- ・住民の能力と技術を活かし、共に生きるまちづくり
- ・豊かで深い歴史を学び、誇りあるまちづくり
- ・住民が健康で長生きできるまちづくり

に則した取組を行う自治組織の活動にかかわり、具体的には下記の活動を通年で行いました。

・自治組織2部会がかかわる事業の運営補助

「結い学び部会」

（7月）桜田城山道整備

（10月）健康歴史ウォーク

（1月）どんど焼き案内（年賀状）

（2月）応急手当講習

（通年）地区外地縁者への広報誌の配布

「てごすけ部会」

（通年）遊休農地の保全維持活動（ひまわり・菜の花の植栽管理）

（通年）お助け隊（草刈）

（通年）農機具の貸出

（通年）てごすけ号運行（巡回診療通院支援、運行は社会福祉法人）

・公民館・他団体との共催事業への協力

（8月）盆行事

（9月）INAKAライド エイドステーション

（11月）ふれあい祭り、スマホ相談会

・まちづくり特別補助金を活用してのイノシシ箱罠購入と地区内6自治会への設置

（箱罠の設置・見回りは美濃猟友会）

・公民館業務の実施（自治組織の活動以外のもの）

②活動の成果及び効果

- ・ 地区民がふれ合える交流の場づくり
- ・ 地区民の安心・安全に資する取組
- ・ 遊休農地の利活用に対する多面的な取組
- ・ 地域情報の発信
- ・ 歴史を学び、守り、伝える取組
- ・ 生きがい、健康づくり

盆行事	桜田城山道整備	菜の花	INAKA ライド
			
ふれあい祭り	健康歴史ウォーク	ひまわり	箱罨設置
			

4. 残された課題と今後の提案

『少子高齢化』により地域の生活と環境をこれまで通りに維持管理することが大変難しくなっています。更に言えば数年の後には存続の危機が訪れている地区もあるでしょう。その土地を離れるかどうかの最終的な判断はその人にしかできないでしょうが、生きてきた土地で最後まで暮らしていけるようであれば良いのではないのでしょうか。

『人を増やす』ということについてはなかなか手立てがないように思われます。Uターン・Iターン希望者が現れた時には気持ちよく対応をしたいと思えます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

美濃地区に配属となり1年にもなりません、地域みなさんに支えられての活動が続いております。早く地域の役に立つ活動が出来るようにしなければいけないと考えております。

地域魅力化応援隊員 氏名 宮内 英之

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

小野地区

2. 配置年月

平成30年4月

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

小野地区においては、平成29年3月に「夢あふれる小野の里」を設立して以来9年目を迎え、応援隊員としての活動は、同組織の活動方針に沿って事務的な支援を行った。

事業計画については、今年度から新たに向う3年間で取組む「第3次地域づくり計画」へと移行した。これまで同様に“地域づくりと人づくり”、そして「3つの部会活動」において事業を実施している。

① 地域づくりと人づくり

人材育成を進めていくために、地区内での学習会や各種研修会等へ積極的に参加する等取り組みをすすめてきた。

② 各部の取組み

【防災環境部】

防災環境部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

■ 「草刈り隊活動」の支援

令和2年度から地域の「お助け隊事業」として取り組んでいる「小野地区草刈り隊活動」について、今年度も継続して事業を実施した。

令和5年度から作業実績も増加し、今年度も昨年同様の実績であった。

《作業実績の推移》

*令和2年度 ～ 13件

*令和3年度 ～ 12件

*令和4年度 ～ 13件

*令和5年度 ～ 24件

*令和6年度 ～ 30件

*令和7年度 ～ 29件

■ 「子ども見守り活動」の支援

令和2年度から活動を開始している「子ども見守り活動」について、今年度も継続して事業を実施した。

戸田小児童数も年々減少して今年度は全校で35名となり、地域によっては児童が全くいない集落も増えている。そのような状況を踏ま



え、活動される隊員も前年から4名減となり、現状では19名体制で活動を行っている。

真夏の暑い陽射し、真冬の寒さにも負けず連日のように活動された隊員さんには本当に感謝の気持ちです。

■ 若者の活動支援

若者の交流の場「しゃべり場」を定期的開催し、活動についての協議やイベントを開催した。主な活動としては、ここ数年毎年企画している「灯りをともすイベント」として、7月に衣毘須神社周辺、12月に小野公民館において「明るく灯そうキャンドルフェスタ」を開催した。地区内外から多くの方が来場し、「夕暮れのともしび」を観賞された。



■ 鳥獣被害対策の推進

前年度からの活動を継続し、以下の取組みを実施した。

(イノシシ対策)

「イノシシ」を捕獲駆除するため、「大型獣用捕獲檻」を新たに2基購入し、地元猟友会と連携して被害を及ぼす箇所へ設置した。

猟友会より「前年度は地区内で30頭のイノシシを捕獲した」との報告を受けている。



(サル対策)

前年度の対応に引き続き、人間の住む領域から「サル」を追い払う取組みを実施した。益田市が実施する「煙火保安講習」を受講した地区内の担当者が、「サル」出没時に「煙火打上」を実施した。「サル」出没時と打上のタイミングがマッチした場合は、効果があるとの報告を受けている。

*煙火打上件数 ～ 26件（令和6年10月～令和7年9月まで）

【健康福祉部】

健康福祉部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■ 健康増進のための啓発活動

「健康や福祉に関する記事」を地区民に紹介することとして、「健康福祉だより 第8号～第11号」を発行した。（年間4回発行）

また、地区文化祭において、「検診・受診に関する記事」をパネル展示し、「検診を受けることの重要性」についての呼びかけを行った。





■ 「AED使用訓練」の実施

咄嗟の時に対応するため、AEDの使用方法や心肺蘇生等についての、「応急手当講習会」を開催した。

益田広域消防本部職員を講師として、健康福祉部会員を主体に地区内より12名の方が参加し、職員指導の下真剣に訓練を行った。

小人数での対応で指導内容も分かりやすく、とても有意義な研修会であった。

■ 「お買い物ツアー」の取組み

昨年に引き続き「のぞみの里でお買い物ツアー」を企画し、9月に第3回目を実施した。

地区内より14名の方が参加し、施設内の見学や買い物（パンや苗もの等）を行った。また、近くのキヌヤ西益田店へ買い物に行く方もおられ、有意義な時間を過ごした。

【生涯学習産業部】

生涯学習・産業部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

■ 「おの産直市」の実施

産直市の開催については、コロナ禍以降毎年12月に開催していたが、地区内イベントが増えている実情を踏まえ、今年度は11月の「歳末チャリティーふるさと祭り」と同日に開催した。

当日は絶好の好天に恵まれ、早朝から地区内外より多くの方が来場して、余芸を楽しみ各店舗での買い物をされた。

地区内で栽培された「新米やもち米」をはじめ、「トマト、ダイコンなどの野菜類」、「温州ミカン、しいたけ」等を販売した。

開始早々に売り切れになる産物もあり、賑わいのイベントであった。



■ 「気軽に参加できる学習会」の開催



生涯学習産業部会有志で構成する実行委員会主催による「おのひとまるミーティング」を前年に引き続き企画した。今回は1月23日（金）午後2時40分から戸田小学校体育館において開催した。平日の日中にも拘わらず地区内より多くの方が参加し、小学生（5・6年）から80歳代までの地区民約80名が和気藹々とトークを行った。

(2) 活動の成果及び効果

本年度より「第3次地域づくり計画」に移行し、三つの専門部会の事業計画に沿って取組みを進めた。

各部会の事業計画については、「第2次地域づくり計画」から継承している項目が多々あり、今年度の段階で当初目標に対して一定程度前進した事業もあるが、全体的には多くの課題を残しているのが現状である。

今年度の各専門部会の活動に対する成果として、次の事業を推進することができた。

- ① 「子ども見守り隊」の活動を継続実施した。
- ② 「鳥獣被害対策」に係る具体的な取組みを継続実施した。
- ③ 子ども向けの防災活動（防災デイキャンプ）を実施した。
- ④ 「草刈り隊」の活動を継続実施した。
- ⑤ 若者の活動支援として、「灯りをともすイベント」を継続実施した。
- ⑥ 「AED操作研修会」を実施した。
- ⑦ 健康増進のための啓発活動として、健康に関する記事を記した「健康福祉だより」を年間4回発行した。
- ⑧ 「認知症サポーター養成講座」の継続開催について協議を進めた。
(次回令和8年4月～5月に実施予定)
- ⑨ 「おの産直市」を継続開催した。
- ⑩ 「気軽に参加できる学習会」を継続実施した。

それぞれの項目において多々課題は残されているが、更なる内容の充実に向けて協議・検討を進めていきたい。

4. 残された課題と今後の提案

本年度から「第3次地域づくり計画」へと移行し、初年度の活動を終えようとしている。各専門部会の活動については、着々と事業に着手できている「項目」もあるが、全体的には進展していない「項目」が多々あり、多くの課題が残されている。

今後においては、地区内での担い手の育成を主体に考え、役員をはじめ各部会員との連携を密にして、「地域ぐるみの活動」に取り組んでいきたいと考えている。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

自身が地域魅力化応援隊員に着任しすでに8年の年月が経過した。今年度は9月頃から少し体調を崩し今後の継続可否を検討したが、何とか大事には至らず業務を進めることができた。

現状地区内においては担い手（後継者）不足が一番の課題であり、若者世代から高齢者まで楽しく語り合える（過ごせる）ような地域になれば良いなど日々実感している。今後「話し合いの場」を大事にし、楽しく活動できる組織運営を目指し努力していきたいと考えている。

東仙道地区

地域魅力化応援隊員 氏名 青戸 美奈子

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

東仙道地区

2. 配置年月

平成28年4月

3. 活動の概要

① 活動の内容

- ・東仙道ちいき協議会全体

東仙道花園ライトアップ事業、東仙道デジタルアーカイブ事業、神寶山八幡宮のPR

- ・互助部会

東仙道お助け隊事業、お買い物バスツアー事業

- ・地域活性化部会

四ッ山歴史ウォーキング、ふるさとカレンダー事業、運動会、文化祭

- ・福祉健康部会

グラウンド・ゴルフ大会、東仙道寺子屋事業、みんなでパン工房

※全体会を年数回、部会を随時開催

② 活動の成果及び効果

- ・東仙道ちいき協議会全体

令和2年度のまちづくり活動特別補助金を活用し開始した「東仙道花園ライトアップ事業」では、今年度も引き続きひだまりパークみとの桜、三番道路桜のライトアップ（3月）、災害復旧記念碑のもみじライトアップ（11月）、神寶山八幡宮鳥居ライトアップ（11月～1月）を実施し、国道を通る人たちの目を楽しませた。彼岸花（9月）はここ数年異常気象で育成状況が悪く、ほとんど花が咲かないブロックもあるため中止している。

神寶山八幡宮についても昨年度同様、「祝・日本遺産認定 構成文化財 神寶山八幡宮」のぼり旗を国道から八幡宮への入り口、鳥居横に設置した。

また、今年度採択されたまちづくり活動特別補助金を利用し、古いビデオテープに記録された文化祭等地域の映像をデジタル化するとともに、現在の姿を記録として残していく「東仙道デジタルアーカイブ事業」を実施し、公民館に残っている一番古い昭和56年の文化祭の様子を3月1日の文化祭で上映した。高齢者から懐かしいとの声があり、若い世代からは活気がある文化祭の様子に感心の声があがった。

・互助部会

「東仙道お助け隊」では、草刈りや庭木の片づけ等の依頼が36件あり、のべ83名の隊員が作業にあたった。

また、(株)キヌヤさんの協力を得て行なっている「お買い物バスツアー」も、通常通り実施した。石見交通の都茂線廃止に伴い、10月より乗合タクシーの運行がスタートし、運行時間、料金ともに利便性が格段に上がったが、お買い物バスツアー利用者からは「みんなでわいわい行けるのが楽しいから参加している」との声もあり、買い物だけが目的でない事業となっている。

・地域活性化部会

「四ッ山歴史ウォーキング」は地区内外から70名の申し込みがあった。今回は益田まつりと同日に開催ということもあり、どのくらいの申し込みがあるか心配したが、リピーターの方をはじめ去年中止になったので、と参加してくれる方もいた。下山後の新米カレーやかき氷を楽しみに来るといった声も聞かれた。

「運動会」は秋に開催していたが小学校運動会の変更に伴い、6月7日に昨年度同様地域競技2種目の午前開催という形で開催した。年々児童数が減っているが地域一体のあたたかい運動会となっている。

10年目となる「ふるさとカレンダー事業」では、“四ッ山のある風景”をテーマに、東仙道で馴染み深い四ッ山の様々な姿で制作し、出来上がったカレンダーは広報3月号と一緒に折り込み、全戸配布した。ふるさとカレンダーについてはカレンダー以外にも郷土の歴史を残す役割も担っている。

「文化祭」は3月1日に開催し、たくさんの人で賑わった。人口減少する中で、変わらずに作品展示をしてくださる方や、忙しい中練習をして舞台出演してくださる方がたくさんいらっしゃるので継続できている。

・福祉健康部会

放課後に小学校の空き教室を利用し、地域の方に見守っていただきなが

ら宿題を済ませて帰るといふ「東仙道寺子屋事業」は、今年度も引き続き行うことができた。学校の方針が家庭学習を重点に置くということもあり、今年度も週1回の開催となった。ボランティアは少数になってきているが、子どもたちの学校生活を知る数少ない機会となっていると同時に、子どもたちと地域の大人が触れ合う場ともなっている。

毎年6月に開催していた「グラウンド・ゴルフ大会」は運動会の6月開催に伴い今年度は11月に開催予定だったが、悪天候のため中止した。

公民館と共催で行なっている「みんなでパン工房」はクリスマスケーキづくりを12月6日、親子を対象に行い、3組7名の参加があった。

4. 残された課題と今後の提案

・東仙道ちいき協議会全体

地域の代表10名が部会員として各部会に所属し、会議を進めているが、事業の運営となると公民館運営委員や各自治会にお願いしないと事業が出来ない状態である。今後も協力を仰ぎつつ、ちいき協議会の体制部会員構成、事業の運営方法について検討が必要である。

・互助部会

「東仙道お助け隊」について、草刈りは繁忙期が限定されているので、隊員の負担が大きい。もう少し負担を分散させられるよう、引き続き隊員の確保に力を入れたい。

また、小さな困りごとに対応できるような体制づくりについて協議していきたい。

「お買い物バスツアー」については、高齢や体調の理由で参加をやめる方もおられるが、免許返納を理由に新規の参加者も増えているので全体的な人数に大きな変化はない。買い物に関しては移動スーパーとくし丸の周回に加えて、乗り合いタクシー運行開始による利便性の向上によって買い物に対するハードルは少し下がったように感じるが、“みんなと一緒に楽しく買い物”といった買い物以外の部分も大事にしていきたい。しかし、交通に関しては住民の声を聞きつつこれからも引き続き協議していきたい。

・地域活性化部会

「文化祭」について、来年度は第50回という大きな節目を迎えるので、記念になるようなイベントにしたい。今年度はまちづくり活動特別補助金を活用、実施した「東仙道デジタルアーカイブ事業」で昔の文化

祭の様子をスクリーンで上映したが、来年度は様々な場面で活用しながら歴史も感じられるような事業にしたい。

- ・福祉健康部会

「東仙道寺子屋」について、学校の方針が家庭学習を重点に置くということが打ち出され、空き教室を使って学校で宿題を終わらせて帰るといった事業の内容から見直しが必要となっている。一方で、週に一度の実施ではあるが、地域と小学校を繋ぐ数少ない機会にもなっているため継続していきたいが、ボランティアさんの高齢化が進み、減少している実態もある。長期休業中の開催などを含め、継続可能な寺子屋事業の広がり等について協議していきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

いろいろな事業を進めるにあたって運営側も参加側も人不足ということを感じた。運営側に関して、ちいき協議会委員だけでなく公民館運営委員も一緒になければできない事業も多々あり、これからは公民館とは連携して進めていきたいと思うが、すでに高齢化が進み、このままでは立ち行かない状況になるのは目に見えているので、若い世代の参加、そしてバトンタッチができるような体制を考えていくと共に、負担が偏ることなく“みんなで”という意識を持って運営できる組織づくりを目指したい。

来年度も、今まで通りの活動をしつつ、若い世代の意見を聞き、無理なく参加、継続できるような活動をしたい。

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

匹見上地区



2. 配置年月

令和3年4月から

3. 活動の概要

↑↑↑ Facebook

↑↑↑ Instagram

①活動の内容

◆自治組織支援（事務局）

- 第6回通常総会資料作成 ◦自治組織会計
- 役員会レジュメ
- 匹見町産業文化祭活動報告（展示作成）
- 自治組織情報発信（便り作成、SNS掲載）
- 煙火花火講習会受講料補助交付対応

◦協賛事業対応（公民館他主催）

◦視察研修引率（二条里づくりの会、益田広域消防本部見学）

◦地域活性化助成金制度関係（申請お手伝い、交付決定通知等）

◦地域づくりフォーラム発表資料作成 ◦匹見に交流スペースを作ろう!!

◆研修会

- 匹見地域の未来を考える研修会 ◦人権同和教育推進協議会研修
- ひとつづくり研修会～「住民が当事者として参画する地域づくり」～
- 地域自治組織座談会

◆会議

- 地域づくり担当者会議 ◦第2層協議体（支え合いづくり協議体）

◆公民館活動

- タブレット講座
- 匹見保育所 届ける学習
- イベントスタッフ（きのこ狩り）

②活動の成果及び効果

◆役員の入替わり、組織改革、により、新しい風が吹いている。会議はタブレットを活用し事務局としてサポートした。

◆匹見町産業文化祭での活動報告は今年度も地域活性化助成金制度について紹介したポスターを作成し展示した。自治組織の事業を知ってらうきっかけとなったと思う。協賛事業対応（公民館他主催）については景品の選定、スタッフとして参加した。

◆煙火花火講習会受講料補助交付対応では、事前に昨年度受講した方の領収書を作成



匹見町産業文化祭での活動報告



しておきスムーズにやり取りができるよう準備した。

視察研修（二条里づくりの会の皆さんと）

◆視察研修引率（二条里づくりの会、益田広域消防本部見学）では役員の方とまた改めてこれからを考えていく一歩になった。二条里づくりの会からは、日ごろの事業に防災を取り入れられ普段から備えを行っている。参考にさせてもらい、今後に繋げたい。



◆自治組織情報発信（便り作成、SNS掲載）では、便りは29号まで発行しSNSでも掲載した。また地域活性化助成金制度の活用状況や交流スペース製作進捗状況も作成した。

◆地域活性化助成金制度関係では、制度を通して“地域で困っていること”や“地域を盛り上げたい”を直接聞くことができた。

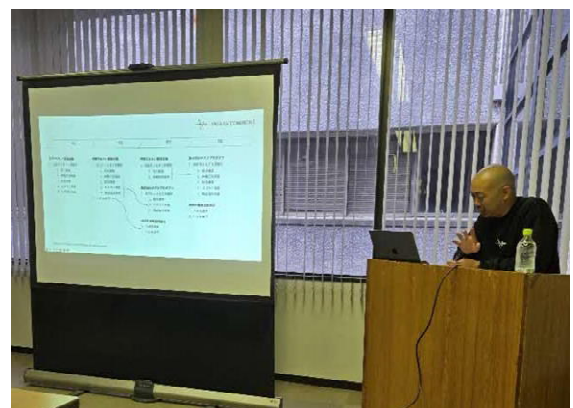
◆地域づくりフォーラム発表資料作成では、発表者という貴重な体験をさせてもらった。今回発表したことで他地域の参考の一つになったら嬉しい。

◆新しい役員の考案で匹見に交流スペースを作ろう！！をテーマに、益田市まちづくり活動特別補助金を活用し事業を行った。地域の方にも関わっていただき約半年かけて製作した。地域活性化助成金制度と交流スペースの両方を活用した取り組みを地域住民と行っていきたい。



交流スペース製作中

◆地域づくり担当者会議では応援隊員、地域マネージャーの交流の場でもあり悩み相談や学びの場でもあり、今回、応援隊員・地域マネージャー研修として弥栄の未来創造会議のアドバイザーでもあり浜田市ふるさと体験村マネージャーでもある、太田章彦さんを講師に迎えた研修で「自分で企画して誰もやらなければ自分もやる」という思いが、太田さんが覚悟をも



応援隊員・地域マネージャー研修

って日々の地域のことを考えられていることを感じられる研修会になり今後も様々な研修会で日々地域のことについて考えている方の思いをもっと聞いてみたい、そんな機会を大切にしたいと思った。

◆第2層協議体（支え合いづくり協議体）は社協匹見支所主催で行われており始まって約3年となるが、自分の意見が社会福祉の事業に活かされているのは嬉しい。今後も積極的に出席したい。

◆研修会においてはどの研修も自分の仕事に活かすことができる内容だった。

◆匹見地域の未来を考える研修会（主催：匹見3地区自治組織）は今年度第2回目で今回は第1回目とは違った参加者があり、次年度の活動について積極的に話げできた。楽しい活動を作りたい。

◆ひとづくり研修会～「住民が当事者として参画する地域づくり」～に出席して当事者として住民に

参加してもらうのが一つ課題としてある地区で、講師の工藤尚悟さんの言われた「～せずにはいられない」という言葉がまさに、普段の地域に関わってもらっている方の「～せずにはいられない」ことを自治組織も関わってお互いに協力しあえたらもっと地域が良くなっていくのではないのかと思った。

◆公民館活動では、公民館活動のタブレット講座に主事と一緒に講師として参加しタブレット講座を軸に月1回地域の方と地域の先輩としても、お互いに学び合っているように思っている（1カ月／1回、基本水曜日）また、匹見保育所 届ける学習では、地域柄、保育所職員の方にも親しみやすさや好感を持ってもらっているように思う。今後とも、自身の職員としての立場を考えて行動していきたい。

2 / 2 1 (土) 匹見地域の未来を考える研修会にて



2 / 1 2 (木) ひとづくり研修会



4. 残された課題と今後の提案

組織のあり方について、今までは自治組織がイベントを企画して運営しそれを事務局がサポートしていた。大変だったがやりがいもあったように見える。しかし現在は令和6年度からの新しい事業が地域に浸透し令和7年度は申請数が増え「頼りになる自治組織」の形ができつつあるように思う。同時に、役員や事務局の負担も減少傾向にある。負担と思わず関わってもらうにはどうすればよいのか役員と一緒に探求していきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域づくりフォーラムでは初めて実践者として自治組織の取り組みについて発表をさせてもらった。資料作成等大変ではあったが機会をいただけたことが大きな自信になり、他地区の参考になれば嬉しい。また今後も地域のために努力したい。

2 / 7 (土) 地域づく



匹見下地区

地域魅力化応援隊員 氏名 寺西 泰一

令和7年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置地区

匹見下地区

2. 配置年月

令和4年9月から

3. 活動の概要

①活動の内容

1. 生協しまねとの協同による買い物支援事業の推進・発展

匹見下地区は人口193人、高齢化率69.9%という状況にあり、移動手段の確保と買い物支援は喫緊の地域課題である。特に自家用車の運転免許返納者や単身高齢世帯の増加により、「日常の買い物」が生活不安の要因となっている。

こうした状況を踏まえ、令和6年5月より、生協しまねとの協同による買い物支援を開始し、今年度は事業の定着と仕組みの安定化に注力した。

【事業の仕組み】

- ・生協しまねが公民館へ商品を配送
- ・公民館スタッフが仕分け
- ・地域住民ボランティアが見守りを兼ねて各世帯へ配達
単なる宅配ではなく、「顔の見える関係づくり」「安否確認」「生活相談のきっかけづくり」を意識した地域支え合い型モデルとして運営している。

【これまでの主な動き】

令和6年度

- ・生協しまね理事会研修での事例共有
- ・島根大学によるヒアリング
- ・島根県職員研修での視察対応

令和7年度

- ・6月17日 生協しまね総代会にて活動報告
- ・11月10日 公益財団法人生協総合研究所ヒアリング
- ・12月 生協共立社（山形県）視察受入
- ・12月 おかやまコープ視察受入

県内外からの視察・調査が相次ぎ、中山間地域における「住民主体型買い物支援モデル」として全国的にも共有される事例となった。

また、11月には買い物困難が想定される2地区で住民説明会を開催し、今後のエリア拡大について協議を開始した。

地域魅力化応援隊員としては、毎回の配達に同行し、利用者・ボランティア双方との対話を通じて、地域課題の把握と信頼関係構築に努めた。

2. みんなでチャレンジ！公民館等職員実践研修の成果を活かした事業実践

島根県立西部社会教育研修センター主催「みんなでチャレンジ！公民館等職員実践研修（全4回）」に参加し、「事業を通じた人づくり」「協力者の主体性を高める関わり方」について体系的に学んだ。

その成果として、子どもの主体性を軸に据えた事業

「匹見っ子と和太鼓演奏～たたいてスッキリ！みんなで笑顔～」を企画・実施（令和8年1月17日）。

【事業概要】

- ・参加児童生徒：8名（匹見 Jr.） ・和太鼓奏者 今福優さん 堂本英里さん
- ・地域住民：24名 ・合計：34名

【特徴】

- ・子どもが“講師”となる構成
- ・事前ワークショップ3回実施
- ・内容構成・進行方法を子ども自身が検討

単なる体験型イベントではなく、「子どもが地域の担い手として活躍する姿を地域に示す」ことを目的とした。

【成果】

- ・子どもの自己肯定感の向上
- ・高齢者の健康増進と心理的活性
- ・世代間交流の深化
- ・地域文化資源（和太鼓）の再評価

研修で学んだ「任せる」「評価する」「目的を共有する」といった手法を実践に活かすことができた。

3. 定住促進に向けた体験住宅の活用

個人所有住宅を活用した「ひきみ田舎暮らし体験住宅」の整備と試行的運用を実施。

【受入実績】

- ・千葉県在住の移住検討夫婦
- ・東京在住のアユ釣り愛好者
- ・益田市内の家族3組
- ・定住促進係依頼のインターン生など

わさび田見学、匹見川でのアユ釣り体験、地域住民との交流などを通じて、生活のリアルを体感してもらう機会を創出した。

短期滞在を「関係人口づくり」の第一段階と位置づけ、次年度は1～2週間滞在型への発展を目指す。

4. 地域自治組織の活動

匹見下いいの里づくり協議会と連携し、健康福祉・生活環境分野の事業を支援。

- ・百歳体操（5会場）
- ・グラウンド・ゴルフ大会
- ・レクリエーション大会
- ・地域公共交通講演会
- ・防災研修会 など

買い物支援事業は生活環境委員会の重点事業として位置付けられ、協議会活動の中核的取り組みへと発展している。

5. 研修参加・ネットワーク形成

- ・地域づくりオールスター祭り
- ・ささえあいフォーラム
- ・益田市地域づくりフォーラム
- ・AI活用講座 など

他地域事例の学習と人的ネットワーク形成を通じ、匹見での実践に還元した。

②活動の成果及び効果

（1）生活支援モデルの確立

買い物支援は「配送事業」ではなく「地域福祉モデル」として機能し始めている。利用者の安心感の向上、ボランティアの役割創出、外部評価の獲得という三面的効果が確認できた。

（2）人づくりの実践モデル構築

和太鼓事業を通じ、「子ども主体」「世代間交流」「文化継承」を同時に実現するモデルを構築できた。

（3）関係人口の創出

体験住宅活用により、移住希望者との接点が具体化。今後の定住施策の基盤づくりとなった。

4. 残された課題と今後の提案

1. 買い物支援の担い手確保と対象地区拡大

現在実施している生協しまねとの協同による買い物支援は、利用者の生活安定に寄与している一方で、運営を支える地域ボランティアの高齢化という課題を抱えている。

【現状の課題】

- ・配達ボランティアの固定化
- ・担い手の高齢化
- ・今後の利用者増加への対応
- ・未実施地区からの要望への対応

【今後の方向性】

- ・若年層や比較的元気な高齢者への参加呼びかけ
- ・「短時間・月1回」など参加しやすい仕組みの周知
- ・活動の見える化（広報誌・SNS・報告会）による理解促進
- ・配達ルートや仕分け方法の効率化

また、買い物困難が想定される地区で実施した住民説明会を踏まえ、段階的な対象地区拡大を検討していく。

単なる福祉施策ではなく、「住民主体型生活支援モデル」として制度化・安定化を図る必要がある。

2. 移動支援の新たな仕組み構築

匹見線廃止の影響により、移動不安はさらに顕在化している。買い物支援のみでは解決できない通院・金融機関利用・行政手続きなど、多様な移動ニーズへの対応が課題である。

【課題】

- ・公共交通の選択肢減少
- ・デマンド交通の周知不足
- ・高齢者の予約・利用手続きへの不安

【提案】

- ・地域内での「移動ニーズ調査」の実施
- ・買い物支援との連動モデル検討
- ・利用体験会の実施
- ・デマンド交通・福祉輸送との連携強化

移動は生活基盤そのものであり、生活環境委員会と連携しながら、地域に合った現実的な仕組みを模索していく。

3. 子ども主体事業の継続化

和太鼓事業は単発イベントではなく、「地域の担い手育成」の第一歩である。

【課題】

- ・継続的な発表機会の確保
- ・運営支援人材の確保

【今後の展開】

- ・年1回の交流事業として定例化
- ・匹見町全体（匹見上・道川）への拡大
- ・「子ども企画会議」の設置

子どもが地域に必要とされる経験を積むことが、将来的なUターンや関係人口創出につながると考える。

4. 体験住宅の制度設計と広報強化

「ひきみ田舎暮らし体験住宅」は試行段階から本格運用段階へ移行する時期にある。

【課題】

- ・滞在ルールの明確化
- ・利用料金・管理体制の整理
- ・安全管理と受入体制整備
- ・情報発信不足

【今後の方向性】

- ・1～2週間滞在型モデルの実施
- ・地域住民との交流プログラムの体系化
- ・移住相談窓口との連携強化
- ・SNS・移住サイトでの発信

短期観光ではなく「暮らし体験型移住促進モデル」として制度設計を進めたい。

5. 匹見3地区連携による移住戦略

匹見下単独では人口規模・資源に限界がある。

匹見上・道川と連携した「匹見エリア」としての発信が不可欠である。

【方向性】

- ・3地区合同移住体験ツアー
- ・共通パンフレット作成
- ・空き家情報の共有
- ・地域行事の横断参加

エリア戦略として展開することで、定住促進の可能性を高めたい。

行政への期待

これらの取り組みを持続可能な仕組みへ発展させるため、以下の支援をお願いしたい。

- ・制度的支援（補助制度の活用・制度整理）
- ・広報協力（市 HP、移住サイト等での発信）
- ・関係機関調整（交通・福祉・移住部署との連携強化）
- ・先進事例との情報共有

地域単独では限界がある部分について、行政の後押しをいただくことで、より効果的な展開が可能になると考える。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って 本年度は「形をつくる一年」であった。

買い物支援は構想段階から実装段階へ進み、地域生活を支える仕組みとして一定の定着を見た。外部からの視察や評価を受けたことは、地域住民の自信にもつながった。

また、研修で学んだ「人づくり」の視点を実践に落とし込めたことは、自身にとって大きな成長であった。

子どもが主体となり地域と関わる姿を目の当たりにし、地域づくりの本質は“関係性の構築”にあると再認識した。

匹見下地区は課題先進地である。しかし同時に、挑戦を重ねることで新しいモデルを生み出せる「可能性先進地」でもある。

今後も地域の皆様とともに、小さくとも確実な実践を積み重ね、持続可能な地域の形を模索し続けたい。

○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

平成26年4月1日

益田市告示第77号

改正 平成27年6月12日告示第150号

平成29年3月13日告示第47号

平成31年3月29日告示第90号

令和元年5月1日告示第1号

令和2年3月31日告示第96号

(趣旨)

第1条 この要綱は、公民館等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該コミュニティの設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(配置)

第2条 市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかに該当する団体の存する地区の公民館に応援隊員を配置することができる。

(1) 益田市地域自治組織設立支援事業補助金交付要綱（平成29年益田市告示第46号）の規定による補助金の交付対象となる団体

(2) 益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成27年益田市告示第11号）第5条第2項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）

2 前項の規定にかかわらず、益田市地域マネージャー等雇用交付金交付要綱（令和2年益田市告示第91号）の規定による益田市地域マネージャー等雇用交付金の交付を申請する団体の存する地区の公民館には、応援隊員を配置しない。

(任命)

第3条 市長は、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者、地域の実情に精通した者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者を選考し、応援隊員として任命する。

(身分)

第4条 応援隊員の身分は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第22条の2第1項第1号に規定する会計年度任用職員とする。

(任期)

第5条 応援隊員の任期は、その任命の日から同日の属する年度の末日までとする。

(所掌事務)

第6条 応援隊員は、配置される地区における第2条第1項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動の支援に関する事務を所掌する。

(報告)

第7条 市長は、応援隊員に対し、別に定めるところにより月ごとの業務の内容について報告を求めるものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成26年4月1日から施行する。

(有効期限)

2 この告示は、令和5年3月31日限り、その効力を失う。

附 則 (平成27年6月12日告示第150号)

この告示は、平成27年6月12日から施行する。

附 則 (平成29年3月13日告示第47号)

この告示は、平成29年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の改正規定は、平成29年3月13日から施行する。

附 則 (平成31年3月29日告示第90号)

この告示は、平成31年4月1日から施行する。

附 則 (令和元年5月1日告示第1号) 抄

(施行期日)

1 この告示は、令和元年5月1日から施行する。

附 則 (令和2年3月31日告示第96号)

(施行期日)

1 この告示は、令和2年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の改正規定は、令和2年3月31日から施行する。

(経過措置)

2 この告示による改正後の地域魅力化応援隊員事業実施要綱の規定は、令和2年4月1日以後に任命する応援隊員について適用する。

発 行 令和8年3月

発行元 益田市政策企画局地域振興課

〒698-8650 島根県益田市常盤町1番1号

TEL 0856-31-0600

FAX 0856-23-7708

E-Mail : chiiki@city.masuda.lg.jp